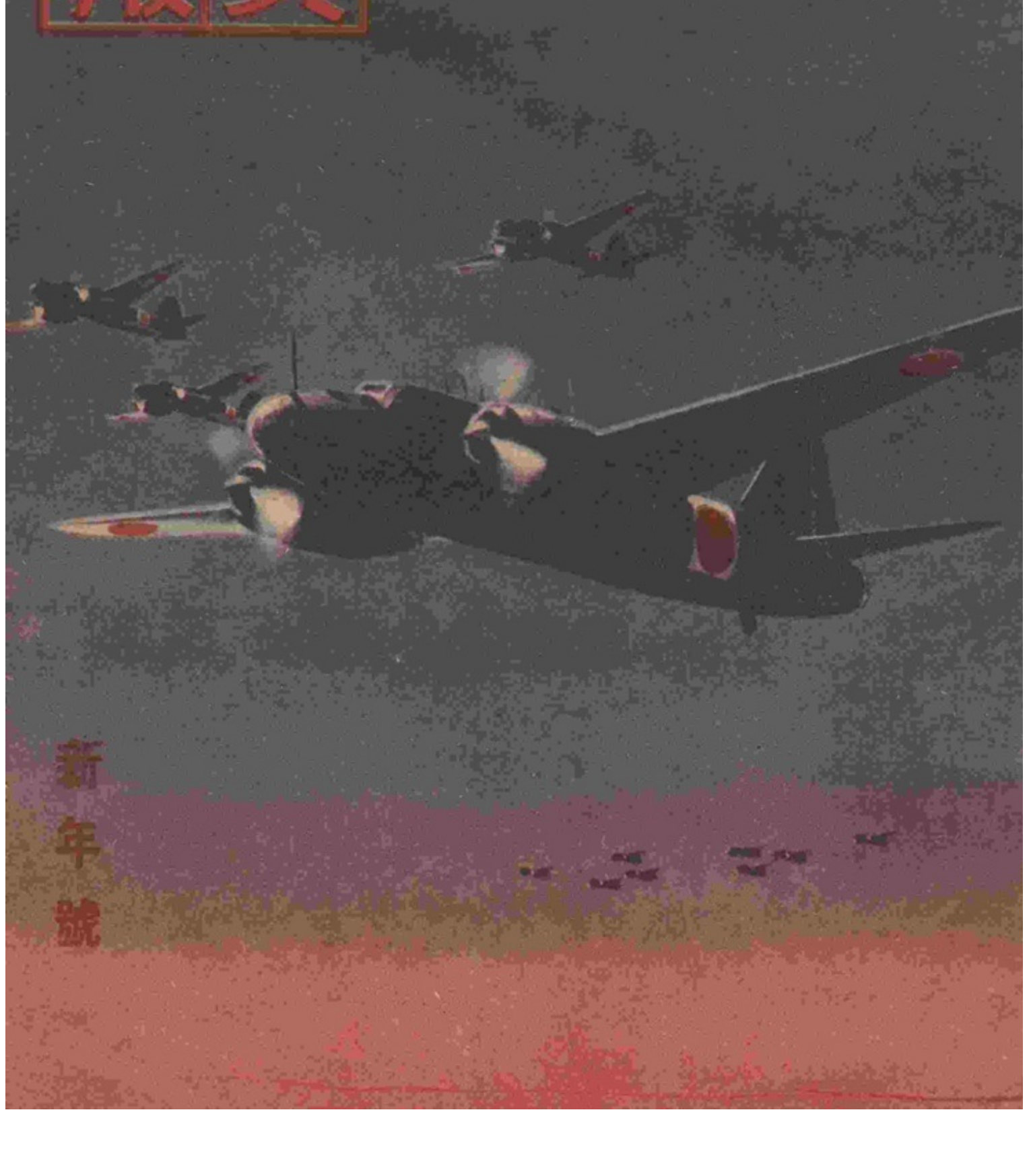


情 報 局 編 輯 部

一 月 五 日 第 三 百 三 十 七 號

寫 真 週 報



新 年 號



皇太子殿下 御十二の新春を 迎へさせらる

皇太子殿下には、御めでたくこのたび御十二の新春をお迎へあそばされました

御英明の御天性とともに、日の皇子さまがいよ／＼御すこやかに御成育遊ばされますことは

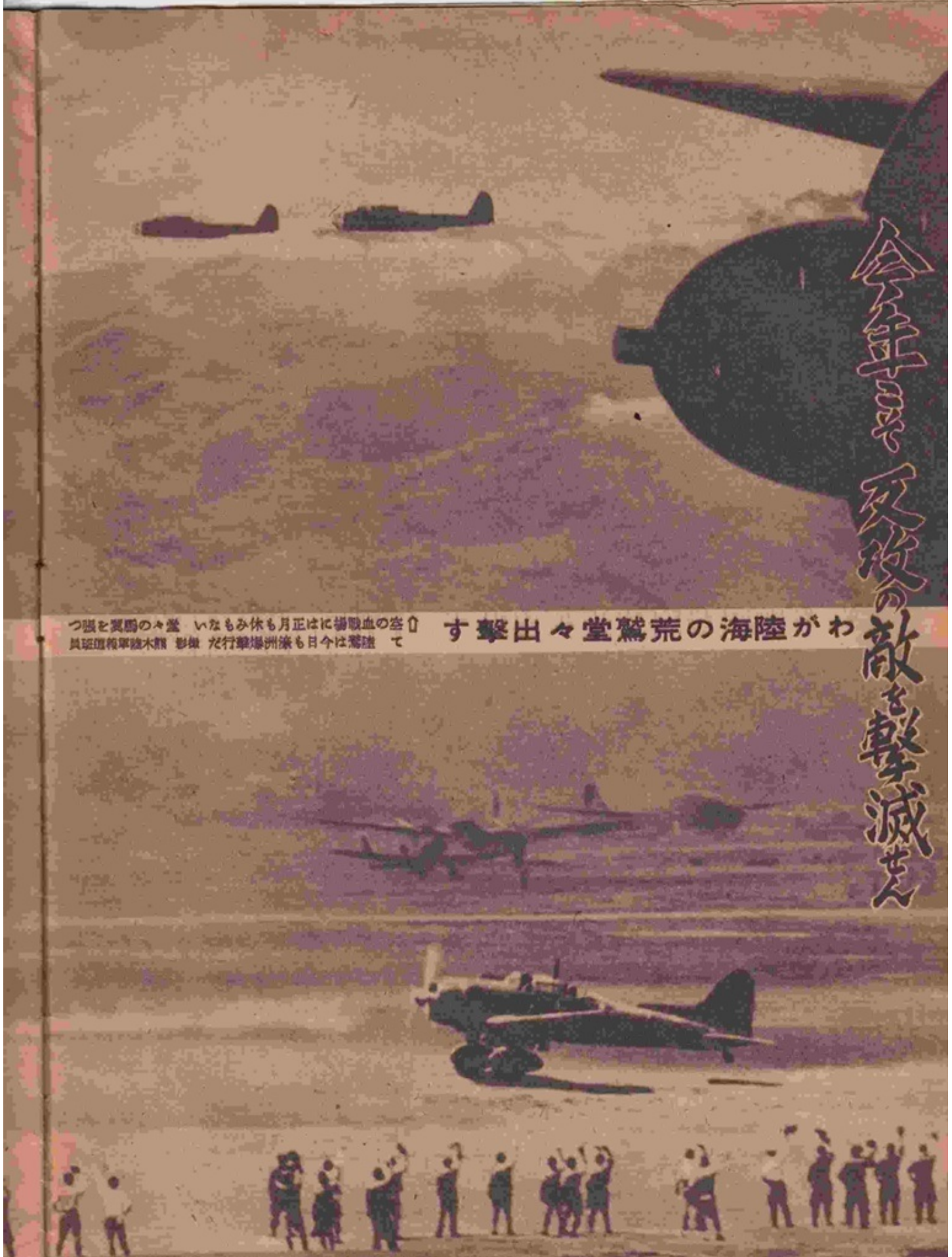
天皇陛下 皇后陛下をはじめ奉りわが皇座のこの上ない御喜びと拜しますが、われら一億國民にとつても、限らない喜びであります

たゞいま学習院初等科第四學年に御在學の殿下には、御勉學に御體練に、また各種學校、軍需工場など各方面の御見學に、御いそしみ遊ばされますが、殊に、機體航空機の御製作、御操作には格別の御興味を御もち遊ばされ、昨年五月一日には、長くも霞ヶ浦並びに土浦海軍航空隊に行啓、親しく海軍機に御搭乗あらせられて前線將士の勇戦を御ばせられたと漏れ承ります

新しい年とともに、いよ／＼米英撃滅の決意を固めるわれら一億にとつても、また、アジア十億の民にとつても、日の皇子さまこそは、希望に輝く御光であらせられます。この御光がますます／＼明らかに輝きまさり給ふかぎり、戦ひの前途もいよ／＼希望にみち／＼てゆくことでありませう

今年こそ
反攻の
敵を撃滅せん

つ張を翼馬の々堂 いなもみ休も月正はに揚戦血の空 ↑ す撃出々堂驚荒の海陸がわ
員班道機軍陸木熊 影撮 だ行撃爆洲染も日今は驚陸 て





き巻を塵砂にうやの風疾 はらか地基ぬらやけ明だま
員班偵報軍海口艦 影操 だ撃出が驚海の殺必敵求 てげ上 ↓



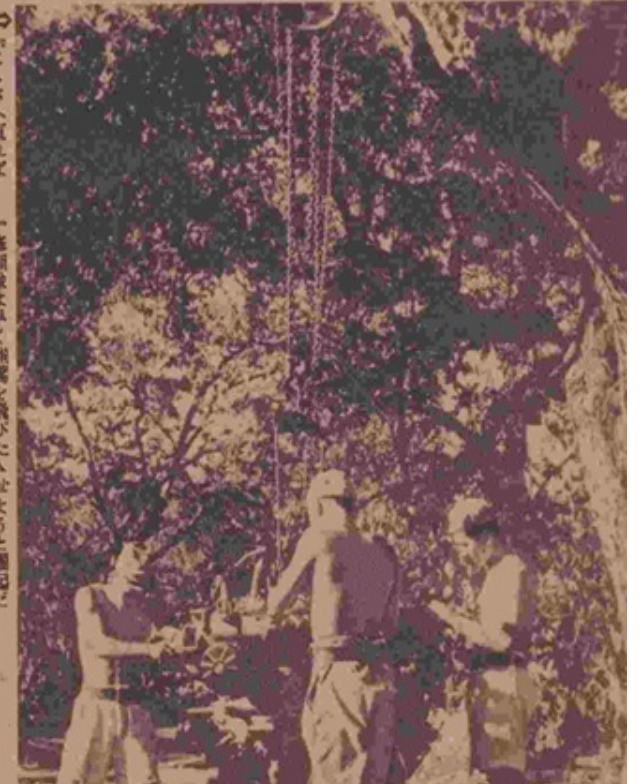


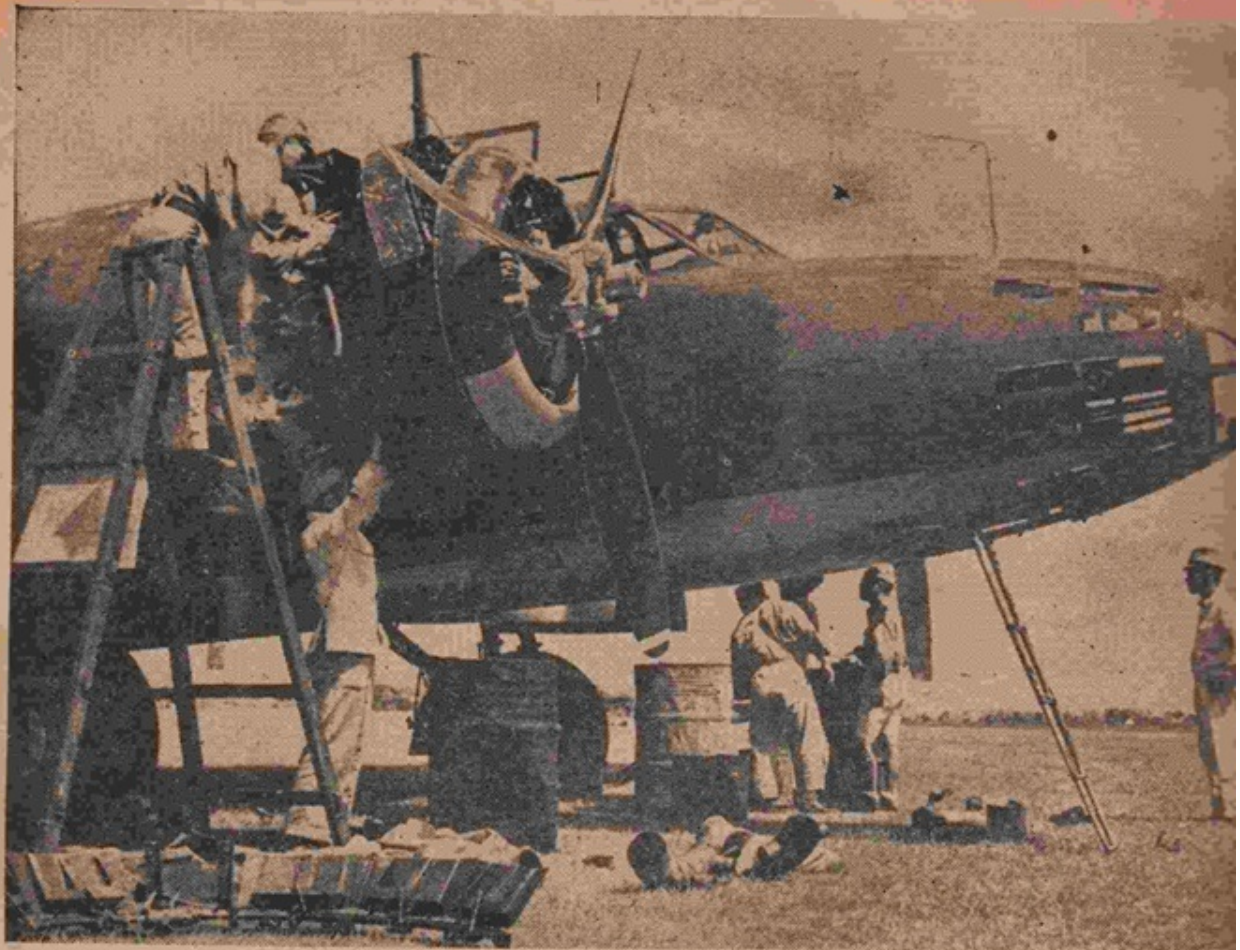
危ぶる世は 気意込

南第一線〇〇基地

「こまへ直れば……」修理隊は早く陣営を築ひた、せようと固記だ
 捲地機だ。修理隊は鑽のやうに、みる／＼空機を木陰に隠してほつとひといき
 「こいつを敵陣のまんなかへ落してくれ」機隊の願ひはこれだけだ

目的は……多いた
 意の形には……





群を仰ぐ、自然自足する勇士の頼もしいゆとり

飛ばせる荒鷲——それは人知れぬ勞苦を、日夜やすみなく戦ひぬいてゐる基地の地上部隊だ。敵機の来襲に備へ一秒も目を離さない對空監視隊、いつなん時でも射たんと構へる高射砲隊、連絡に、指令に、火華を散らす無電通信隊、出撃用意の彈藥補給に急ぐ輸送隊、さらにもた、蜂の巢のやうな被彈の痕に輝く武動を語り、故障に激しい出動回数を示す機體の修理や整備に必死な作業隊、これらの陸の部隊の血と汗が渾然一つになつてこそ、赫々たる大戦果が生れる。

門の決戦場に基地を守り、天翔ける陣鷲に心おきなく戦はせる『飛ばせる荒鷲』の心を今年の一億の心としよう

撮影

熊本陸軍報道班員

二分でも早く、正確に細かく多い部品の整備も手分けの作業に誇りうちだ
ガンガン照りつける日光の直射も何んその、對空監視隊の闘志は燃えて……

